

算数授業のめあてとポイント

令和8年12月号

学校図書対応

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、

児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがなと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学 年	単 元	単元のめあて と 授業のポイント
1 年	下巻⑬	・11月号参照
2 年	下巻⑮ 分数 同様単元 K3月⑰ T2月⑯	◎単元のめあて(板書例) ものを同じ大きさに分けたときの 大きさのあらわしかたを 考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・p.48～52では、テープや色紙などの具体物を2等分・4等分する等の操作を通して、「元の大きさの半分として元の$\frac{1}{2}$の大きさ」「半分の半分として元の$\frac{1}{4}$の大きさ」等の分数の意味が実感できるようにする。 ・p.53～54では、図に表して比べることで、「元の大きさの$\frac{1}{2}$を2倍すると元の大きさに戻る($\frac{1}{3}$の3倍)」等倍と分数の関係を理解し、説明できるようにする。 ・p.55では、みかん10個の$\frac{1}{2}$は5個になり ミカン4個の$\frac{1}{2}$は2個になる等、「同じ分数でも元の大きさが変われば1つ分の大きさも変わることを」理解し、説明できるようにする。
3 年	下巻⑬	・11月号参照
4 年	下巻⑭	・11月号参照
5 年	下巻⑮ 正多角形と円 同様単元 K1月⑭ T2月⑰	◎単元のめあて(板書例) 円を使って辺の長さが全て等しい多角形をかく 特ちょうを見つけたり、円の周(まわり)と直径の関係を調べて きまりを見つけたりして、説明しよう。 ◎授業のポイント ・p.72～76では、円を基に正多角形を描く活動を通して、正多角形の性質を理解し、説明できるようにする。 (円の中心をn等分すれば、n個の二等辺三角形ができる。) ・p.77～80では、円周の長ささと直径の長さを測定し、円周の直径に対する割合を帰納的に考えることで、「円周÷直径＝円周率(3.14)」が 実感できるようにする。また、「円周と直径が比例関係になること」を理解し、説明できるようにする。 ・p.81～82では、「円周÷直径＝円周率」より「円周＝直径×円周率」を導いて、円周の長さが求められるようにする。
6 年	⑬	・11月号参照

<お知らせと お願い>

「算数教育ネットワーク岡山」でHPを検索して、毎月の「算数授業のめあてとポイント」や

「算数教育 情報コーナー」等をご覧いただき、日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。(atmark_を@に直して下さい。)